

「応援メッセージ」と「してほしいこと・できること」

1. 必要としています！

●瓦礫片づけボランティア支援用の物資を！

今回の災害については皆様にご心配いただきありがとうございます。
福島ですが、やはり原発問題の影響が依然変わらず悪いです。
復興したくても、地元に戻って復興できない状態が、避難者のストレスになっている状態です。
仮設住宅ができるまで、体育館等の避難生活は変わらないでしょう。

小中学校も、放射能の数値が下がるまで屋外の運動は禁止されています。
外には(校庭)子どもの姿が見えず、状態です。

物資面では皆様のご協力で、だいぶ満たされ、通常の生活には困らない状態になってきました。
本当にありがとうございました。
今後の活動としては、今まで通り週末は避難所の子どもに運動を提供し、
新しく平日は高齢者対象に運動をしていく計画です。

長期戦になりますが、ボランティアを募集し、定期的に瓦礫片づけ活動していきたいと思っています。
そこで、ボランティアに向けての支援物資をお願いしたいと思います。

- ①防塵マスク
- ②軍手(滑り止め付き)、
- ③水(ペットボトル 500ml)

以上、3点、協力できる範囲で構いませんので送って頂けると助かります。
何卒、よろしくお願いいたします。

<送付先>

〒960-8034 福島県福島市置賜町 8-8

パセナカ Misse 一階 NPO 法人エフ・スポーツ 半澤様 (外に支援物資在中と記入)

TEL/Fax: 024-521-6631

2. 応援しています！

●みんなで、頑張りよう日本。時には、甘えましょう他人に。

ちょっとした事が幸せに思える日が、これから沢山待ち受けています(愛知県からのおたより)

私は、愛知県のスポーツクラブでクラブマネジャーを務めています。
今回の東日本大震災を見て、40年前の15才の自分を思い出しました。

高校受験を前にして勉強した後、眠りに付いた 30 分後ボンという音と共に、自分の家が全焼してしまいました。私は中学の教科書を鞆に詰めて逃げましたが、着る物も布団も無くなり、地域の皆様からのご好意で支援を頂きました。全てを焼き尽くして、もちろん高校には行けず、中学の先生から企業内学園を紹介されたため、迷うことなく???、九州の親元を離れ遠く愛知県の学園に入りました。

自分の育った環境は決して恵まれていた訳ではありませんが、それなのにこのような目に合うとは、神様なんてこの世の中にはいないとも思いました。

しかし、後ろを振り向いていたら前に進めません、自分の負の経験が普通に食べて生活出来る様になり、普通が有難く感じる様になりました。自分で選んだ道を歩む決意をしました。いつまでも諦めない気持ちを持つ様になりました。続けることは力なりと言う言葉もあります。

スポーツの世界では、いつも勝つだけでは無く、負けたり勝ったり、架空の失敗を経験させてくれます。子供達は泣いたり笑ったりの毎日です。生きているから感じる悔しさや幸せです。今のスポーツクラブもまだ、完成された形では在りませんが、希望を持ってあるべき姿に進んで行きたいと思います。

サッカーの元日本代表監督のオシム氏の言葉で、スポーツクラブは育てる事だとポスターに書いてあり、最初に見た時は自分には良く理解できませんでしたが、2年目・3年目を過ぎる頃に実感するようになりました。

子供達が育って行く、会員さんが育って行く、教える事で指導者が育って行く、続ける事でクラブが育って行く。続けるためには、笑顔・健康・仲間づくりを合言葉に励んでいます。

毎年春になると日本では、忘れずにきれいな桜が咲いて、全ての人に平等に希望を与えてくれます。諦めずに働く事で、傍の人が楽になるから働く、そうすれば、焦ることは無いと思います。時間が解決してくれる。

私も今では、家も家族も孫もいて、普通の生活が出来ています。子供の頃から野球をやり、30年続けたゴルフの経験を生かして、ゴルフ教室やフットサルの指導などを行っています。子供の頃に憧れた体育の先生に近づいたような気がしている今日この頃です。

今マイナスの経験をされた皆さんには、ちょっとした事が幸せに思える日が、これから沢山待ち受けています。結局自分の生きる環境は、皆んなプラス・マイナス・ゼロだと私は今も実感しています。誰にも平等な環境を神様は与えてくれる、どう感じてどう思うかは、自分が感じて決断して前に歩いて行く事だと思います。

ガンバレ日本、ガンバレ東北、ガンバレスポーツクラブ、しかし、一人では頑張らないで下さい。みんなで、頑張ろう日本。時には、甘えましょう他人に。

三好さんさんスポーツクラブ 宮沢義弘 (4月23日拝受)

3. こんなこと、しています！

●自分自身がスポーツすることで支援できる方法 ～走ることが支えることに～ Spirit of the Japan ～日本の復興に向けたスポーツの可能性～（岩手県からのお便り）

全国のスポーツ愛好家そして総合型地域スポーツクラブに関係する皆様、岩手県の木野と申します。
5年前、当時NPO法人フォルダ理事として、メルマガに「ホームページ講座」を書かせていただきました。
<http://www.japan-sports.or.jp/local/mail/backnumber/11.html>

まずは3月11日の大震災で被災された多くの方々にお見舞い申し上げますと共に、
この地震の災害によって亡くなられた皆様のご冥福を心より深くお祈り申し上げます。

私の住んでいる岩手県は大きな被害を受けました。
フォルダのある北上市は内陸ですが、建物の損壊、電気、水道等のライフラインも断たれ、
暗闇の中、予震に怯えながら過ごしていました。
ガソリンや食糧も不足し、付近では些細な事でイザコザもありました。

ライフラインが復旧してテレビをつけました。
そこで初めて目にしたのは沿岸の津波の壮絶な被害でした。
チャンネルを変えても変えても同じ光景。信じる事が出来ませんでした。
ただただ涙が流れてきました。

【1】1km=10円プロジェクト

その様な状況下で、自分には何が出来るのだろうか？とも考えました。
災害復旧のボランティア・自分本来の仕事・義援金を支払う&集める・何もしないで普段の生活を送る・・・

でも、岩手県北上市で総合型地域スポーツクラブNPO法人フォルダを立ち上げた人間として、
やはり誰かの為に何かをしたい！ しかもスポーツで。そう思いました。

まず始めたことは、自分自身がスポーツすることで支援できること。
今では有名な1km=10円プロジェクトに取り組みました。
「こんな時だからこそ、みんな走って日本を元気にしよう！」と
マラソンやトライアスロン仲間呼びかけました。
目標もなくジョギングしている最中に、このプロジェクトをラジオで聴き、
「やってみよう！」、とたんに走ることが支えることに変わり、前向きな気持ちになりました。

【2】1スロー1コインプロジェクト

次にこの活動に便乗し、1スロー1コインプロジェクトをやりました。
私の趣味のフライングディスクです。
私が副実行委員長を務めているアルティメット東北リーグ【<http://tohokuleague.com>】にて募集開始、
ディスクgolferの皆様:ラウンドスコア×10円の義援金を
アルティメッターの皆様:1得点×100円の義援金という形です。

支援に対する私のミッションは
「支援する活動は1回という単発にしない。」

なぜなら日本の復興はその時、その瞬間思うより、思い続け、行動し続けたほうが良いから。
そして賛同者を1人でも増やすためには、無理のない中身で継続性と広がる可能性を
持たせると良いであろう。

スポーツをすることで、日本を心から体から元気にしていけないのではないだろうか。
動き出した時はそんな希望がみえた時でもありました。

【3】 JustGiving で、自分のチャレンジによる寄付金集め

そして、震災から10日過ぎた3月21日に

私は、「岩手で100日毎日走って被災地支援」【<http://justgiving.jp/c/5497>】というチャレンジを始めました。
個人が、NPO等非営利団体のために、寄付を集める行為を『ファンドレイジング』といいます。
また、寄付を集める人を『ファンドレイザー』と称します。JustGivingでは、チャレンジャー＝ファンドレイザー、
となります。私(のチャレンジ)に集まった寄付金は私が支援したいNPOへと全額寄付される仕組みです。

スポーツの仲間、友人、職場の同僚から広く私のチャレンジに賛同いただけたことは、
100日という長い旅をする私の背中が押される以上に、
100日一緒に復興を祈って日々前に進む仲間がいるという心強いエネルギーになりました。

ミッションはぶれることなく、現時点で70日を越え、毎日復興のこと被災地のことを想って走っています。
雪も降りました、雨も降りました。でも被災地の現状とは比べものにはなりません。
私はチャレンジ達成後も100日を越えても走り続けていくと思います。
復興はもう少しかかりそうですから。

【4】 世界中のトライアスリートによる支援 ～スポーツを通じた絆の強さ

もうひとつ。岩手のトライアスロンの聖地である釜石の根浜という地域も大きな被害を受けました。
炊き出しなどは出来ているものの、なかなかその地域のガレキの処理までにはいたっておらず
大会開催の見通しももちろん立つはずありません。

しかし、この大会に参加していたプロのトライアスリート、マイケルトリーズ氏が tri4japan という
釜石根浜にスポットを当てた支援を世界のトライアスリート、スポーツ選手に呼びかけました。
来日した際に、現地まで案内しました。釜石の人たちと話をし、現場を見て皆に言ったことは、
「僕はトライアスリートなのでトライアスロンでしか支援できない。

ずっと25年間トライアスロンの世界にいました。

トライアスロンは、私たちの生活の一部です。

だから、得意とするトライアスロン界でみんなに呼びかける行動をしようと決めました。」

世界からもここ岩手に支援に来ていただけるスポーツを通じた絆の強さは計り知れないものがあります。
復興するまではアクアスロン(RUN×SWIM)という形で内陸の北上市でトライアスロンの「陽」を消さないよう、
大会を継続していくことで仲間と共に9月の大会開催に向け準備を進めています。

【5】 おわりに ～ Spirit of the game

ここ最近気にかけている言葉で Spirit of the game という言葉があります。聞いたことはありますか？

これは私が7年まえに出会ったアルティメットというフライングディスクを使った素晴らしいスポーツの理念であります。

プレーヤー間の接触が禁止されており、自己審判制(セツフジャッジ)のスポーツであり、すべてのプレーヤーがルールに忠実でなければなりません。

アルティメットは「スピリット・オブ・ザ・ゲーム」とう、

すべてのプレーヤーによるフェアプレー精神の上で成り立っています。

なので、すべてのプレーヤーが意図的にルールを破らないことを前提としているため、

破った場合の罰則は特に規定されてはいません。

私はこの数か月で「Spirit of the game」の重さをひしひし感じました。そして自分にも問いかけています。

私はルールをしっかり守っているだろうか

私は公正かつ客観的であるか

私は誠実であるか

私は丁寧な言葉使いをしてるだろうか

今の自分があることを感謝し、家族、まわりの人に敬意を表しているか。

スポーツは体力の向上、競技力の向上が全面にでてはいますが、

実はこのような精神面の向上もあるわけで、

とりわけ世界に絶賛された、今回の震災時における日本の精神は、

皆さんが関わっているスポーツの影響も多分にあると言えるのではないのでしょうか。

いずれにしましても、総合型地域スポーツクラブというコミュニティの中で

被災地支援できること、あるいは種目ごとの仲間で支援できること、

個人でできること様々あると思います。

復興には長い期間がかかると思いますが、少しでも心の中で一日も早い復興を祈っていきましょう。

私も、全国の総合型地域スポーツクラブを通じて支援の輪が広がっていくことを期待しつつ

復興を祈りながらまた行動していきたいと思っております。

岩手県北上市 木野 渉

<http://wata.tv>

kinowataru@gmail.com

**<注> 情報は寄せられたものをそのまま掲載しております。お問い合わせや送付の際は、
直接発信者様宛にさせていただきますよう、お願いいたします。**

情報をお寄せくださった皆様、ありがとうございました！

1日も早く普通の生活に戻れるよう、復興に向けて皆で取り組んでいきましょう！